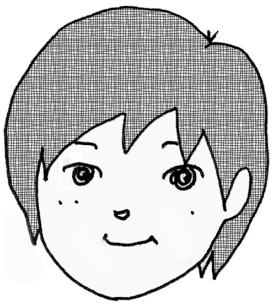
2023.3.25

一般社団法人 日本LD学会
Japan Academy of Learning Disabilities

会　報 第124号

一般社団法人 日本LD学会 事務局（業務委託先）
〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター（株）国際文献社
URL　https://www.jald.or.jp

・巻頭言：教育的ニーズのある全ての子どもが支援や配慮が受けられる教育の場を目指して
・〈連続講座〉研究委員会の取り組み ④研究委員会企画シンポジウム「LD（学習障害）のアセスメント：研究委員会からのアプローチ」の報告
・〈連続講座1〉第3回　家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクト
・〈連続講座2〉第3回　GIGAスクール時代における特別支援教育
・委員会リレー企画　被災地支援委員会の取り組み
・PATIO ～実践の最前線～



教育的ニーズのある全ての子どもが支援や配慮が受けられる教育の場を目指して

国立特別支援教育総合研究所
伊　藤　由　美

昨年の12月に文部科学省から「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果」が公表されました。結果は、担任の先生の判断により「知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示す」とされた子どもの割合が8.8％であるというものでした。10年前の結果と単純に比較することはできませんが、通常の学級に教育的な支援を必要とする子どもがいるという気付きが、以前より高くなっていると読み取ることもできます。実際、通級による指導を受けている子どもの数は年々増えていますし、通常の学級の中で、支援や配慮も進んでいます。一方、支援が必要と気づかれながらも、支援や配慮を受けることなく授業に参加している子どもがいる状況も見えました。

調査の結果は、特別支援教育について、改めて考えるためのきっかけになったように思います。結果が公表された後、教育委員会の先生から「通常学級の先生に特別支援教育の視点の大切さを伝えたいので、どんな研修をすればよいでしょう」と、先生方への理解啓発や研修支援について、声を掛けられる機会が増えた気がします。一方、通常学級の先生からは、指導や支援に対する難しさを聞くことがあります。また、通級担当の先生からは、高い専門性を期待されるが、指導経験が短く、学ぶ機会もないため、悩みながら取り組んでいるという声を聞きます。先生方もそれぞれの立場で日々悩みながら、子どもと向き合っており、子どもだけでなく、先生にも支援のニーズはありそうです。自信をもって指導や支援・配慮にあたれるよう、制度も含め、先生への支援について考えていくことも大きな課題だと思います。

調査結果の数字の後ろにある現場の状況を踏まえ、教育的ニーズのある全ての子どもが、支援や配慮が受けられる教育の場に近づけるよう、取り組んでいかなくてはと思いました。